

富津市次世代育成支援行動計画推進会議議事録

1	会議の名称	富津市次世代育成支援行動計画推進会議
2	開催日時	平成22年2月3日 午前10時00分～12時00分
3	開催場所	市役所2階 第3委員会室
4	審議等事項	(1) パブリックコメントの結果について (2) 富津市次世代育成支援行動計画(後期)最終案について (3) その他
5	出席者名	○委員(13) 渡邊まさ子、前田道夫、小原生代、加藤岡知子、長嶋徳兵衛、稲村重夫、坂本秀則、杉崎敬、鈴木千鶴子、飯田眞雄、長谷川令子、末礼子、矢房麻里子 ○事務局(3) 森田健康福祉部長、鈴木主幹、平野主査 ○オブザーバー(6) 健康づくり課長、市民課長、社会福祉課長、庶務課長、生涯学習課、体育振興課長
6	公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8	傍聴人数	0人(定員5人)
9	所管課	健康福祉部 児童家庭課 電話 80-1256
10	会議録(発言の内容)	別紙のとおり

上記会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するためにここに署名する。

平成22年 2月22日

富津市次世代育成支援行動計画推進会議録

発言者	発言内容
事務局(鈴木)	<p>皆さんおはようございます。それでは定刻となりましたので、ただいまより富津市次世代育成支援行動計画推進会議を始めさせていただきます。</p> <p>まず資料の確認をさせていただきます。事前に配布をしました、会議次第、次世代育成支援行動計画設置要綱、推進員名簿、パブリックコメント手続実施結果報告書について、富津市次世代育成支援行動計画後期案、富津市次世代育成支援行動計画の概要版になります。本日加えてお配りした資料ですが、座席表、富津市次世代育成支援行動計画推進会議に対する意見書の回答、行動計画後期案の差替資料、庁内会議を経て一部修正したパブコメ実施結果報告書となります。以上、資料の漏れ等ございませんでしょうか。なお、推進会議に対する意見につきましては2名の方からの意見でございます。この配布をもちまして確認させていただいたものとさせていただきます。それでは議事につきましては、委員長よろしくお願いいたします。</p>
渡邊委員長	<p>皆さんおはようございます。お忙しいところご出席いただきありがとうございます。本日は委員20名に対して、13名の委員の皆さんの出席をいただいておりますので、会議が成立いたしますので開催させていただきます。議事録署名人でございますが、皆様からご推薦いただける方はいらっしゃいますか。それではこちらから指名させていただきます。よろしいでしょうか。それでは稲村委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。本日の議事録につきましては事務局で作成し、皆様のお手元に届くようにお送りいたします。それでは議事に入ります。はじめに議題(1)パブリックコメントの結果について事務局の説明をお願いします。</p>
事務局(平野)	<p>それでは議題2の(1)パブリックコメントの結果について、パブリックコメント実施結果報告書にもとづき説明させていただきます。事前にお配りした資料ではなく、本日机の上にお配りしております実施結果報告書に基づいて説明をいたします。よろしいでしょうか。パ</p>

ブリックコメントですが、平成21年12月17日から平成22年1月13日の期間に実施いたしました。2名からの意見が寄せられ、案件として12件ございました。そのうち6件については、最終的に1月29日の幹事会、庁内会議でも協議した結果、行政に対する個人的見解もあり、制度の主旨からかけ離れていましたので、パブリックコメントとして扱わず、個別に回答することといたしました。これについては市長や副市長とも協議しております。それでは今回パブリックコメントとして公表する6件についてご説明いたします。

まず、1番目の家庭重視ですが、ここでは家庭の重要性、家庭生活により人間関係の基本、家庭の健全化は富津市の健全化につながる事が強調されています。こちらについては、「家庭重視の意見に対しては、次世代育成支援行動計画の全体の取組みとして、家庭は家族間の深い信頼関係が必要であり、行政は市民との協働が重要だと考えています。」と回答をいたします。

2番目の経済援助ですが、ここでは子どもが大きくなるにつれて、お金がかかり、出生率の低下にもつながり経済援助が必要であるとの意見であります。こちらについては、「国は、子育ての経済的支援として、子ども手当の支給、公立高校の授業料の無償化等を実施しようとしています。市としては、妊婦健診費用の費用助成、乳幼児医療費の助成拡大、保育料の軽減といった子どもの成長段階に沿った支援策を計画に盛り込んでおります。」と回答いたします。

3番目の住環境整備ですが、ここでは子どもを育てていくうえで、広い住まいが必要である事が強調されています。一般論として、安くて広い家には魅力があると思われれます。こちらについては、初めは市営住宅のことかと思いましたが、文章を読み取ると一般論ともとれましたので、回答といたしましては「ご意見ありがとうございます。」と回答することにいたしました。

4番目の職場の環境改善ですが、ここでは子どもが熱を出したときの介護など、就労環境の改善についての意見であります。こちらについては、「国は、次世代育成支援対策法のなかで、職場の環境改善を重

視し、企業に対して啓発活動を行っています。市では『富津市男女共同参画計画』のなかで、男女共同参画の視点から、企業への啓発活動に取り組んでいるところではありますが、本計画である『次世代育成支援行動計画（後期）』のなかでも明確に位置づけて、さらに努力していきます。」と回答いたします。

5番目の正義の心育成ですが、ここでは正義の心を育てる教育の必要性についての意見であります。計画書の3-1にあります、「生きる力を育む学校教育の推進」に該当するかと思われま。市の意見としては、「体験活動や心のノートの活用、学校・地域・家庭との連携など、教育活動全体を通して道徳的な実践力を育てていきたいと考えております。低学年では、『よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う』『嘘をついたり誤魔化したりしないで、素直にのびのびと生活する』などがあります。このような指導内容を基にして正義の心を育成していきたいと思ひます。」と回答いたします。

6番目の健康に関してですが、ここでは市民の健康や子ども達が健康に良いおやつを毎日食べられるよう環境を整えてほしいとの意見でした。回答といたしましては、「市では、市民の健康のために食生活改善推進員の協力を得て、食生活改善に取り組んでいます。ちなみに保育所のおやつについては、極力添加物を含んでいない物や、成長期に必要なカルシウム補給を中心にしてしています。」と回答いたします。

これらについては、昨日庁議という市の最高機関の会議がございまして、回答内容について承認を得ています。今後市長と副市長に決裁をとったうえで、市のホームページに掲載させていただきます。

渡邊委員長

報告書の日付が抜けていますが、こちらは決済後に日程が入るということでしょうか。

事務局(平野)

はい、市長決裁をもらった時点で日付を入れます。

渡邊委員長

今日は委員の皆さんには空欄になったままでご承認いただくということですね。それでは、委員の皆さん、何か質問等ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。それではご報告いただいたということで、皆さんに了解をいただきました。それでは議題(2)富津市次

	<p>世代育成支援行動計画（後期）最終案に入ります。計画案については、事前に皆様のお手元にお配りしております。本日この会議の場が最終になるのでしょうか。</p>
事務局（平野） 渡邊委員長	<p>はい、最終決定となります。</p> <p>そのことにつきましてもご説明いただきながら、事務局の説明を求めます。</p>
事務局（平野）	<p>それでは富津市次世代育成支援行動計画（後期）最終案について説明いたします。計画書を事前にお配りしましたが、1月29日の庁内会議・幹事会においての修正や、また一部誤字等がございましたので修正させていただきました。本日は差替ページをお配りさせていただいております。この資料に基づいてご説明いたします。まず、19ページからとなります。</p> <p>19ページですが、後期の重点目標1の文面ですが、前回と比較しますと、下から2行目「子どもの医療費助成」を「子ども医療費助成」に修正しております。また、上から2行目の「保育園」を「保育所（園）」に修正しました。</p> <p>続いて24ページの2-3のタイトルが抜けておりましたので、「親子の成長への応援」と修正しました。</p> <p>続いて25ページですが、上から2行目を「か所数」を「実施か所数」と修正いたしました。</p> <p>26ページについては特に変わってございません。</p> <p>続いて38ページ、事業名「社会参加促進事業」とありますが、概要で「補装具」を「舗」から「補」に修正しました。</p> <p>続いて49ページの2-7生活設計の支援ですが、事業名「児童手当」を子ども手当の実施がほぼ確定となっていますので、「児童手当（子ども手当）」としました。こちらの計画書は平成22年3月に作成となりますので、括弧書きで対応します。また、現状の「一部実施」を「実施」へ、目標の「実施」を「拡大」へ変更しました。</p> <p>その下の「乳幼児医療費助成」ですが、市として拡大を考えていますので、「乳幼児医療費助成（子ども医療費助成）」と修正しました。</p>

また、先ほどの児童手当の概要については、計画書が平成22年3月になりますので、「中学校修了前」から「小学校修了前」に修正しました。

続いて50ページ、「児童扶養手当」事業ですが、平成26年の目標を継続から拡大としました。こちらも国の制度の関係で、8月から父子家庭にも支給する予定となっていますので、「拡大（父子家庭へ拡大）」としました。

続いて71ページの5-3子育て環境の充実ですが、上の文章を「育児と両立」から「仕事と育児の両立」に変更しました。また、「両立支援制度の普及」ですが、目標を「検討」から「実施」に変更いたしました。また、その下の「行政組織内の両立支援制度の普及」ですが、文字の並びを一部修正しました。

続いて74ページ、関係機関の一覧表ですが、2-2障害児支援の充実において、青堀保育園が抜けていましたので加えました。

続いて75ページ、2-5地域における子育て支援の充実ですが、あおほり子育て支援センターが抜けていたので加えました。

続いて98ページ、計画策定の経過ですが、こちらは会議が行われた日を記載しております。一番下になりますが、パブリックコメントを実施した期間が入っていなかったので加えました。

続いて99ページ、「いいじゃないか！ふつつ」決定とありますが、まだ3月31日とはっきりと決まっていませんので、平成22年3月としております。

最後に、富津市のおもてなしキャラクターですが、1月29日の庁内会議にて、「ふつつん」を載せたらどうかという提案がありましたので載せる予定です。

以上で議題2の(2)の説明を終わります。

渡邊委員長

皆さんには事前に資料をお配りさせていただき、目を通してくださったと思っております。この会議が最終決定の場となります。もう一度会議を開くといった時間もございませんので、毎回会議で気づいた点ですとか言いきれなかった点を文章で頂いていましたが、今日はこ

	<p>の会議を最終とさせていただきますので、皆さんの方でお気づきの点や例えば言い回し1つにしても捉え方が変わってくるかと思しますので、この場でぜひ皆さんより忌憚のないご意見をいただいて、市の方に伝えさせていただきます。その際には何ページの何行目とおっしゃっていただくと会議がスムーズに進みますので、よろしくご協力いただければと思います。それでは意見等ありましたらお願いいたします。</p>
事務局(平野)	<p>委員長すみません、概要版の説明を忘れましたので説明いたします。お手元にカラーの概要版をお配りしております。こちらですが、前期計画では8ページほどの概要版でしたが、前回小原委員さんからも意見がありましたように、市民の方が見てわかりやすいもの、また厚いものではなく、君津市のような見開きでわかりやすいものといった点を考慮しまして作成いたしました。表紙に基本理念を掲げ、中に計画目標、事業計画、後期の重点目標を盛り込み、後ろのページには、相談先一覧ということで載せております。また、相談先一覧の「子育ての悩みは・・・」の一番下に「富津子どもセンター」とありますが、教育センターより、こちらのセンターでは悩みの相談は行っていないということで概要版からは削除の方向で考えています。こちらの概要版も含めてご意見お願いいたします。</p>
渡邊委員長	<p>概要版はどのように配布されるのでしょうか。また、冊子はどのようにしますが。</p>
事務局(平野)	<p>概要版は3000部の発行で考えています。市民1人1人というのは難しいので、区の回覧で考えています。冊子については、3000部の発行となりますので、関係機関や市議会議員に配るほか、市民の皆さんには最終的には販売する形になります、そういった方法で考えております。</p>
渡邊委員長	<p>内容についてはこれから委員の皆さんにご意見をいただきますが、活用としては公民館等で、市民の皆さんが自由に見られるといったことですね。また、ホームページについても載せるのでしょうか。</p>
事務局(平野)	<p>はい、ホームページにも載せる予定です。</p>

渡邊委員長	委員の皆さんから活用方法を含めたご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
小原委員	いつも私は言いたいことがあるから言ってしまいますが、毎回会議をしても話さない方もいらっしゃるわけですね。黙って終わりというのは会議に出て失礼だと思うんですね。皆さん端から一言ずつ自分の思うところをポイント絞って言ったらどうでしょうか。
渡邊委員長 事務局(平野)	この会議は何時までを予定しておりますか。 12時を予定しています。
渡邊委員長	それではただいま建設的なご意見をいただきましたので、皆さんに一言ずつ頂いてもよろしいでしょうか。ご了解いただけますか。それでは座席順で飯田委員からお願いいたします。
飯田委員	前回欠席のため会議の経緯が分からないので、少し時間をいただけますか。
渡邊委員長	はい、それでは末委員お願いします。
末委員	<p>学童保育クラブ遊び塾の末と申します。最初の平成17年からこの会議に参加させていただいていまして、なかなか自分の意見ということと言うことができなくて、意見書を活用して意見を言わせていただいております。今回の後期の冊子を読んでおりまして、次世代計画の中で学童保育として関係する事業としては、11ページの「がんばるって、いいじゃないか」になるかと思いますが、全体を見てなかなか素晴らしいことが書かれていまして、このとおりに行っていけば素晴らしい富津市になるのではないかと、いい冊子が出来たと感動しております。また、学童保育が地域で必要とされているところに、民設民営で拡大されるということで非常に良いことだと思います。早急に設立できるように、こちらからも要望させていただきたいと思います。</p> <p>遊び塾では、子どもの人数に伴いまして減少となってきているんですね。これからの存続が危ぶまれるなかで、ポスターを色々な人が集まる場所に貼らせていただいたり、新聞の折込や広報ふっつにも募集を載せたりとしております。また、このままではいけないということで、改善や間口を広げるということで考えており、昨年より特別支援</p>

	<p>学級の子どもたちも受け入れることになりました。これからも特別支援学級の先生方や専門の方、家庭の方とも相談をして遊び塾でも受け入れていこうということになっています。今回の予算では間に合わなかったのですが、これからは特別学級の支援に対する予算もお願いしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。</p>
渡邊委員長	<p>一つ一つのコメントは後でまとめてといったことでよろしいですか。それでは委員の皆さんから出ました意見については、後でまとめて事務局よりお願いしたいと思います。それでは矢房委員お願いします。</p>
矢房委員	<p>幼稚園の保護者代表の矢房麻里子と申します。今回関わらせていただいて大変勉強になりました。アンケートの結果が少しずつこういう形で反映していることをうれしく思います。ただ残念なことは、市民の方々から頂いたパブリックコメントの意見があまりにも少なかったということです。せっかくいい計画書が作ったのですから、もう少し市民の皆さんに発信をする機会を、具体的に今どうやってとは思いつかないのですが、増やしていけたらと思います。</p>
渡邊委員長	<p>続きまして、坂本委員お願いします。</p>
坂本委員	<p>青少年相談員の坂本と申します。私も前期の計画から携わっておりまして、後期のほうにもお世話になっています。後期の計画においても大変素晴らしいものが出来たと考えております。</p> <p>前期の計画の推進というなかで、情報共有部会というものが確かございました。そのなかで私が部会長のような形でやらせていただきました。そのときにもお話をさせていただきましたけれども、この立派な計画が出来たのですから、それを広く市民の皆さんに知ってもらうということが大事だと思います。知ってもらって、各事業が進んでいくことが一番大事だと思います。前期計画のなかで、ある幼稚園でアンケートをとったところ、25名のうち3名しから知らないという報告がありました。それは前期のはじめだったからそうだったのかもしれませんが、これからは後期ですので、そういった低い認知度では済まされないところもありますので、3月に後期計画が決定されて、4</p>

渡邊委員長
稲村委員

月以降に冊子ですとか概要版やホームページで、広く色々な形で市民の皆さんに周知をして、この計画の内容が市民の皆さんの目に留まるように、そして内容が実行されるように強く望みたいと思います。

続きまして稲村委員お願いします。

P T Aを代表して来ております稲村と申します。前回の会議のときにパブリックコメントが出るのではという話がありましたので、各小中学校のP T A会長に連絡をしまして、何か意見がありましたら出してくださいということで話をしましたが、実際には2名ということで少し残念と思った次第でございます。

また、先ほどの坂本委員の意見と重なりますが、いかにこの計画を周知していくかが大事だと思われまます。前回の会議で小原委員から出た概要版の内容についてはまとまっていますし、最後のページに相談先一覧という情報が出ていますので、こちらは困っている人には大事な情報になるかと思われまます。また、概要版のパンフレットが3000部ということで、回覧を使ってまわすという話がありましたが、回覧で一回見ただけで内容を把握するのは難しいのかなと思います。出来れば子育てをしている人達には一部これがあれば、何かのときには連絡先が出ていますので、すぐに安心して電話を出来るのではないかと思います。

小原委員

市民の代表で選ばれました小原です。これが最後ですので言わせてもらいます。一つは、パブリックコメント2名となっておりますけど、2名のうち私が1名入っているのですが、色々書きすぎたのでこれにそぐわないということですが、ではこの出ている意見がそぐうのかというと、昭和枯れすすきみたいな昭和を彷彿させる、何を考えているんだおじいさんといった意見で、それがパブリックコメントであれば、私の意見がパブリックコメントでないというのはおかしいし、この委員をしているからパブリックコメントを出してはいけないと言われましたし、また今回この会議開催にあたってどなたか分かりませんけれども、圧力をおかけになってパブリックコメント以外のことは言わないでくださいみたいなお断りの電話をいただきましてよく意味

が分かりません。それから色々考えましたけれども、議事録の内容がホームページ上にアップされないなんて、公にならなければ隠してもいいだろうというね、そういう体制を直してくださいと言っているのであって、このパブリックコメントにもありますけれども、正直にとか嘘をつかないとか、それが出来ていないのにこんなことを書けないですよというのの一つです。

それから、いいじゃないか！ふつつの相談先が出来てうれしく思いましたけれども、3番目に障害などの悩みとありますけど、私も幼稚園や保育園などでお世話になっていますが、そういうときにどの親がうちの子が障害児とくくって考えていますか、ということを考えてもらいたい。こういうふうに出して、うちの子そうじゃんって、やすやすと思う人がこの世の中にいるかということ、自分の頭に入れてみてくださいよ。自分の身内がそうなら、こういうことは書けない。自分の孫がそうなら書けますか、自分の息子がそうなら書けますか。こういうような表記の仕方がそもそも親切ではなくて、こういうふうを書くのであれば、子育ての育てにくさですよ、育てにくいことがあったときに育てにくいことは何かないかと書けばいいわけで、障害なんて普通は書くことないと思いましたが、これは富津市系列でまくし立てていますけれども、私が言っているのはCAS、発達支援センターと言いますが、また稲毛の特別支援の相談センターですか、そういったところは県の管轄だから富津市の管轄とは違うと言われればそうかもしれませんけれども、どの管轄であろうが、親は本当のことが知りたい。まやかしか、3月生まれですからやがて育ちますよとか、気休めはいらないですよ。本当のことを知りたい。ただそれだけなんです。尾ひれをつけて、色々言ったり、待ちましょうだなんて気休めで私はいらないし、他の親もそう言っていました。それが出来ていないかなと、表記の仕方に問題があるかと思いました。

それから学童さんのほうで、特別支援のお子さんを受け入れていらっしゃるということで私はうれしかったです。要するに特別支援学級に行っているということは、この子達は生涯孤独です。お友達が出来

	<p>ません。お友達っていうのは小学校低学年であれば、お母さん達がお友達になってねとお菓子の一つでも持たせれば、30分でも40分でも遊んでくれますけど、中学生になるとお菓子1つ持って行って遊んでねと言っても遊んでくれないですよ。そういった生涯にわたって孤独なんだということを、相談者や関わる大人が知っているということは、私は大事なんだなと思いました。</p> <p>この間は三芳の保健センターで勉強会があったんですけども、それは自閉症の勉強だったんですが、その場に子育ての支援というか、学童保育の方も来ていました。富津市でそういった勉強会をするとほとんどの参加者は親ですけど、房州では3分の2が教師でした。子育て関係の預かっている先の方が勉強会に来ているということが驚きでした。</p> <p>最後に1つは、南房総の方では、第4次障害者計画ということが出来てパンフレットをいただいて来たのですが、こちらの市ではどうなっているかという心配があります。以上です。</p>
渡邊委員長	<p>ちょっと確認をさせていただきたいのですが、パブリックコメントに対して委員は意見を出してはいけないということは会議では申し上げていないと思いますけれども。</p>
小原委員	<p>私が出そうと思ったら、ちょっと、と言われたんですよ。</p>
渡邊委員長	<p>これは事務局いかがでしょうか。ちょっと確認をさせていただきます。</p>
事務局(平野)	<p>パブリックコメントですが、基本的にはこういった推進会議に参加できない市民から意見を募るということですので、他の計画でもそうなんですが、こういった会議の入っている委員さんからの意見はなかったのです。</p>
小原委員	<p>現に他からは出てないですよ。もっと意見が出るようにアピールしないと。</p>
事務局(平野)	<p>そういった意味で小原委員に伝えたかったんですけども、出すなとかそういった意味ではなかったのです。</p>
小原委員	<p>でもそういうふうに聞こえましたよ。</p>

事務局(平野)	それについては申し訳ございませんでした。
渡辺委員長	委員につきまして、この会議で言い足りなかったことは紙であげてくださいと常にお願ひしていたつもりでしたが、それを事務局の方としては活用していただきたいといった配慮があったのではないかと思われます。それでは杉崎委員お願ひします。
杉崎委員	<p>それでは私の方は校長会とこういうこととお話をさせていただきます。子育てという中心に学校教育があるわけですし、こういった会でお話をさせていただくと、私たちの役割をさらに自覚したり、世間の大きさを自覚したりとしているわけです。私たちは基本的には教育委員会を通してお願ひしていることが多いわけですが、教育委員会も富津市の厳しい財政のなかで、よくやっただいていてという印象を受けています。</p> <p>この冊子に関してといったところから少し離れますが、富津市の将来の活性化ということはこの冊子にも基本的な考え方がありますが、少子化をどうしていくか、ということだと思います。立派な計画書が出来ましたので、私としては、概要版1つ出すにしても無料で出来るわけではないのでお金がかかるということで、厳しい財政状況ということは分かるのですが、富津市の将来を考えているのであれば思い切って将来的にはこの大きなものを基にして、子育て都市宣言であるとか、または教育都市宣言であるとか、そういったものに見合う財政基盤を作っただいて、力を入れていただきたいと願っています。そのために環境整備ですとか、大変なお金がかかるわけですが、ぜひ実現して欲しいと思います。</p> <p>また、子どもを健全に育てるということに関しましては、私たちも努力しているところではありますけれども、私は青堀に勤務してましてそこで感じることは、青堀は地域が変貌しておりますので、以前にも増して学校と地域、家族の連携が必要であろうと考えています。</p> <p>先日民生委員のある方とお話しましたが、大人が挨拶しないと、私たちの学校でも子どもに挨拶運動ということで行っていますが、すれ違っても子どもは挨拶するが大人は挨拶をしないといった話がありま</p>

した。私たちも学校から子ども達のことと親や地域の方へ色々と発信をしているわけですが、その方たちが言うには、親を教育する場はないのかということで受けましたが、それは今の社会背景といったところもあります。私たちがなりの場を大切に親へも呼びかけをしていこうといった話をしました。そうならないように富津市も我々大人がしっかりとしていかなければいけないと思います。私たちができる学校教育の範囲で精一杯取り組んでいきたいと思っています。

また、ここには載せていいのか、教育委員会の施策ということで分かりませんが、教育相談という体制は非常に大事だと考えています。富津市教育委員会も理解していただいて、国や県から色々な施策を受けていただいて、例えば自立支援指導員のようなものを市に位置づけて私たちの学校にもカウンセラーが来まして親や子ども達とも非常に良い関係が築けているといった、子どもたちの自立に向けて良い取り組みが出来ていると感じております。そういったものはこういうなかには入らないのかなと思ったりもします。

また、もちろん全ての子ども達が大事なわけですが、特別支援学級の子供達への教育というのも将来的には非常に重要だと考えております。ちなみに他市でもそういった体制が整いつつありまして、富津市でも数年前から市独自で雇っている指導員が3名程度いるようですが、学校現場としてはそういった方々の人数をもっと増やしていただきたい。とあるところでは、そういった教員の数というのは県の問題であるので、市では無理だという話を受けたということも聞きましたが、ぜひ市でも子育てや特別支援が必要なお子さんがいる現状のなかで、指導員の拡充は必要だと考えていますので、教育委員会でも努力をしていきますが、市の方にもお願いしたいと思っています。なにせ予算という縛りがあるなかで、全てのことがパーフェクトにいくわけではありませんが、それに向かっていこうという姿勢や努力は必要なわけですので、私たち自身も子どもたちを守る大人も、市と連携を図りながらこれから取り組んでいきたいと思っています。

続きまして長嶋委員お願いいたします。

渡邊委員長

長嶋委員

私は区長会の方からでして、今日で2回目となります。委員の皆さん方のご努力をいただいて、素晴らしい計画書が出来たのではないかと思います。ご苦労さまでした。なかなかこういったことは出来ないで、富津市の取組みに感謝します。ただですね、今前の委員の方からも出ましたように、区としましては、冊子の立派なのが配られてもみんなの迷惑だと、はっきり言いまして見ないんですよ。やっと持って帰ってもらうというのが現実です。せっかく部局で出しているわけですが、みんなの家に配れというのは要点がはっきり出て分かりやすいものが大事なんですよね。内容をちゃんと見ればいいんでしょうけれども、なかなか現実にはできないので、先ほど稲村委員からも出ましたが、配るんでしたら全部の家に届くようにしていただきたいのが1つです。区として啓蒙も行いますけれども、こういった立派なものができるにしても、これを実際に自分たちの生活で活かしているのかということは非常に難しいんですよ。これからも色々と資料を配るんでしたら、そういったところをもう少し考えて行っていただきたい。もちろん色々な資料で考慮する面もあるんでしょうけれども、それをぜひお願いしたいと思います。本当にご努力いただいて素晴らしい概要版は出来ていますが、なかなかこれを紹介していくのは難しい面もあります。いかに直接市民と触れ合うような場を設けるかということを考えていただきたいと思います。本当に2回出席して勉強させていただきました。ありがとうございました。

渡邊委員長

続きまして加藤岡委員お願いします。

加藤岡委員

君津健康福祉センターの加藤岡と申します。私は母子保健の分野から話をさせていただきますと、母子保健は平成9年に改正されまして、ちょうど10年少し経ちました。そういったなかで、事業の拡大や継続は10年前から変わらないわけでございます。そういった意味では、きちんと事業の質の評価を出来るようなものが必要でないかなと感じます。実際に子育て支援では、母子保健はかなり広く関わるわけですが、その辺りを具体的な評価ができるような計画が必要だと思うんですね。そういった意味では、これ以外にも具体的な施策を各分野で設

ける必要があるのではないかと思います。

それから、保健所の方でも思春期保健ですとか色々のご協力をいただいているわけなんです、思春期の関係については学校教育課が中心となって行うというわけですが、母子保健のお母さんたちを育てるというのは思春期のところと非常に関わってきますので、保健分野も学校保健と連携してもっと積極的に関わっていただく形が望ましいかなと思います。

細かいところを申し上げますと、64ページに君津健康福祉センターの不妊治療対策のことが書いてございます。不妊相談センターは県内の保健所4箇所で行っているものでございます。ですから、全ての保健所で行っているものではないのですが、君津では行っています。それからまた特定不妊治療費助成事業と書いてありますが、こちらは体外受精や顕微授精ですとか、特に高額な費用がかかるものに対して、保険が使えませんのでその一部を助成しようといったものです。ですので、この言葉の回しですが、「不妊治療を受けやすくする体制の整備に努めています」というよりは、「費用の一部を助成しています」といった内容をはっきり書いていただいたほうが分かりやすいのかなと思います。体制整備ですともっと広い意味がありますよね、医療費の助成や医療の体制ですとか、色々あるかと思いますので、ここでは「費用の一部を助成」とはっきり明記した方が良いかなと思いますが、いかがでしょうか。

渡邊委員長

64ページの件につきましては、後ほどまた事務局よりお願いいたします。それでは鈴木委員お願いします。

鈴木委員

私は学童期の障害をもっている、障害というと小原さんに怒られそうですが、特別支援学校や特別支援教室に通っているお子さんが月に1回集まって一日過ごすというボランティア団体の代表を行っている鈴木と申します。

私は前期から関わってしまして、今期の会議のなかで前回決断された部分が反映された今回の計画案に対する私の持っていた字面のイメージが異なっていたのでお話しすると、前回「お父さんへおせっかい

な一言」で「おせっかい」という言葉が取り上げられました。ここではお父さんだけではなくて、大人全体を含めてみんなで子どもの環境を考えていこうということで、目標値が少しずつ達成されてきていた後期ですので、まあ抜いてもいいのかなと思っていたんですが、ここで改めて冊子を見てみますと、「お父さんへ一言」ですと、お父さんだけの努力目標だけで書かれてしまっているような気がするんですよ。そうやって考えたときに、私はこの「いいじゃないか！ふっつ」の情緒的な表現が大好きなんです。とても気持ちとして安心する、またいい気持ちになるような言葉でまとめられているんですね。そのなかで、「お父さんへ一言」ってお父さんへ文句を言っているわけではないし、お父さんだけの努力ではない、みんなで支えていかなければいけないことを書いているわけですから、「お父さんへ一言」という表現は少し強かったかなと感じています。それをどんな表現にするかということとはなかなかいい表現が出ないのですが、「大人たちへ」とかそういうふうになるのかなと、ただ8ページのような「休みの日には奥さんとお腹の赤ちゃんと一緒に、産まれてきたら何をしようか話し合いましょう」というような言葉には、やはり大人達ではなくてお父さんへお願いしたいことだなということも考えてしまうわけなんです。皆さんはどんな意見を持っているか伺いたいと思いました。

また、これだけ皆さんに意見を言っていただくと、私もそう思っていたということで意見が続いていくかと思えますですから何かに向かうには目標がないと進んでいけないと思えます。その目標としてこの計画があるわけですので、私たちは常に目標に向かいたいと思えます。内容云々のところは、実際に行動を起こしてその目標が実現されるためにどのような知恵を絞り合うかという、そのプロセスに私たち市民が試されているのではないかなと思えます。ですので、情報提供であったり、子育て環境の充実であったりですとか、色々な課題はまだまだいっぱい山積みだと思えます。これは富津市だけの問題ではなくて、国としても大きな課題であるわけですが、では国としてもこの大きな課題にどう向かおうかというところが、ここの基本理念にある

「少子化の強い危機感を逆に力にして」という、この「力にして」というところで私達は市民レベルで何とか実現していきたい、一つでも目標値を到達させたいと大きな役割を考えたら、とても身が引き締まる思いではありますが、何かお役に立ちたいなという気持ちでいます。

ボランティア団体では多くの方々がいますが、本当に気持ちで参加していただいています。報酬とか名誉だけではないということを、やはり市の方も信じていただいて、お互いに力を合わせるにはどうしたら良いかを考えていきたいと思います。そのために、先ほど坂本委員さんからもありましたが、前期では部会を作って語り合おうという話がありました。こういう語り合いをしたら何か出来そうな気がしたんですが、結局それで終わってしまいました。私達はもっと会議をしたいんですが、費用等のことから会議は出来ませんといった話になったかと思います。でも私達は語りたいんです、建設的な会議をしたいんです。そうしないとこの実現は難しいと思います。この会議を企画するにあたって、行政の色々な部署が事務局になっていただかないと、まず市民が行動を起こせない、そんな気がするんですね。行政の色々な部署の方が事務局になっていただいて、何か協力をしたいという市民を吸い上げていただきたい。そして会議をしたい、そんな企画をお願いしたいと思いました。

渡邊委員長

今、鈴木委員から沢山のご意見をいただきましたが、この冊子のなかの「お父さんへ一言」については、また後ほど皆さんに良いアイデアがないか伺いたいと思いますので、ちょっと頭のなかで考えていただきたいと思います。最後になりますが、お待たせいたしました、長谷川委員お願いします。

長谷川委員

私は公立保育所代表の長谷川と申します。この会議は今年度初めて参加させていただいて、良く分からない部分もありましたが、公立保育所としましても子育て支援ということで力を入れているところでありまして、家で子どもを育てているお母さん方をどのように支援していくかということがあります。公立ではおひさま広場というものを行っておりまして、各保育所を回ったり、市で行っている1歳半等の健

診のときに、市役所で会場を作ってもらい開催しております。私達としては、これからも拡大してやっていこうと思っておりますけれども、出来れば固定した場所があるといいね、という話し合いは進めています。児童家庭課の方々をお願いしまして、固定した場所があればお母さんたちも安心して、より集まってくれるのではないかと考えています。

また、働いているお母さん、働く人の保育所でありますので、子ども達が熱を出したときは親に連絡をしますけれども、皆さん働いてまして会社が休めないとか迎えに行けないといった現状があります。私達もそれをどのように支援していくかというところがありまして、そのところを少しでも安心して子どもを預けられて、お家の人たちの支援ができればと思っています。また、保育所の人員確保も市役所をお願いしたいと思っています。

それでは飯田委員お願いします。

私は民間保育園の代表という立場になります。計画書の42ページにほとんどのことが網羅されておりますので、これらを更に推進していただきたい、そんなふうに思っております。また、先ほど長谷川委員から熱がでたら保護者に連絡をするといった話がありましたが、それはおそらく特殊な例じゃないかと思っております。うちあたりですと、看護師を置いて、ある程度は看護師の判断で医者に見てもらおうような形をとっています。それから医者の判断で家で見た方が良いのであれば保護者に連絡をしていますが、たいていは保育所の中で処理しているような現状でございます。

そのほかでは、保育園に入らない子どもを持つ保護者の方々は月2回ほど見学がてら交流する機会を取っておりますけれども、そういった方はたいていあっちこっちの保育園等を回っているようです。最終的には、保育園と幼稚園で個人負担を天秤にかけまして、幼稚園ですとか公立の保育所に行くといったケースも見られるわけです。ですから、最終的には子育て支援ということであれば、保護者の費用負担軽減を更に市の方で図っていただきたい、そんなふうに考えている次第でございます。

渡邊委員長

飯田委員

そのほか一般的な話ですが、先ほど杉崎先生から保護者というか親が挨拶をしない、親を教育する場がないといった意見が出ましたけれども、普段痛切に感じているところです。今世の中は消費者意識が非常に強いです。相手のことはどんどん言うが、自分の責任はあまり負わないといった、そういうふうに感じを受けます。そういったことは別としまして、せっかく出来たわけですから庁内に周知徹底をして活用していただけるよう、そんな冊子にしていきたいと思います。

渡邊委員長

ありがとうございました。皆さんから様々な角度より貴重なご意見を沢山いただきました。それにつきまして事務局より説明を求めます。まず、学童保育への支援ですとか、パブリックコメントをはじめとする行動計画のPR方法、将来像を含めた市としての取組方向、特別支援教室等を含めた市の取組方向、概要版の活用や全戸配布は出来ないか等、またその前に「お父さんへの一言」についても皆さんに意見をいただきたいと思います。それでは、先に市の方から説明をお願いします。

事務局（健康
福祉部長）

皆様方には貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

健康福祉部の部長を務めております森田と申します。多岐にわたりご指摘をいただきましたが、今お答えできる範囲でお答えさせていただきます。

まず障害の言葉の使い方でございますが、市が使用している障害という言葉は広い意味で使っております。知的障害者福祉法ですとか、身体障害者福祉法ですとか、そういった意味での障害ももちろん含んでおりますけれども、この次世代育成では大きな意味で、それにふさわしい概念や言葉のカテゴリがなかなか難しいものでございますので、広い意味で障害といった言葉を使っております。1つの内部障害から複雑な大きな障害までございます。言葉の使い方については、個別の障害者にとっては問題があると、病気と障害の違いは何ぞやという話もございます。何らかの形で生活に支障がある方、何らかの形で心に悩みを持つ方、精神障害者やうつ病といった、そのような方々も含めて知的障害だけではなく広い意味で使っているとことをご理解賜

りたいと存じます。

それから先ほど障害者基本法に基づいた計画ですとか、南房総での障害者プランの話がありましたが、富津市でも昨年の3月に10カ年の第二次基本計画「いきいきふつつ障害者プラン」で第2次基本計画と、平成21年度から23年度第2次障害福祉計画の両プランを策定しました。この計画書では周りでも珍しいですが、音声が出るSPコードという、QRコードのようなものとは違うものを使用して、社会福祉課にごさいますテルミーという10万円くらいの機械を使って、機械にこのコードをかざすと男の人や女の人で音声が出るようになっています。目の不自由な方でも朗読ボランティアの手を借りなくても読み取れるようになっていまして、大体1つのコードで800文字が読み取れるようになっています。これは去年作成した障害計画では全ページに入っています。このコードを入れている市は、習志野市や八千代市ですとか進んでいる市では入っていますが、この辺りの市では少なく、富津市の他の計画書においても今後コードを入れるつもりでおります。この障害者プランの計画書には切り込みがありまして、この切り込みに触って機械にかざせば音声が出るようになっています。機械は社会福祉課にごさいまして、一般の方々にも貸出をしています。それから各窓口にもこの機械を設置することになっています。ですから富津市の障害者計画においても、このような形で新しく出発をしております。それから、こちらの高齢者支援福祉計画と高齢者保健事業を一緒にした「いきいきふつつ高齢者プラン」においても昨年3月に策定しております。ですので、この「いいじゃないか！ふつつ」は社会福祉関係としては3つめとなります。内容的には一番大きい計画になろうかと思えます。

また、19・20ページに、今回後期の重点目標が載りました。前期の計画では17・18ページに重点施策を載せました。今回、後期ということで、初めて通しではない5カ年計画が出ました。先ほどご意見がありましたが、目標をたててそれに向かっていくといった過程の重要性を強調なさっていた委員さんもおられました。その通りだと

思います。市民とボランティア、市民と各行政の色々な相談窓口、色々なところが協力し合いながら問題解決に向かって歩いていこうといったその姿勢が重要だと思います。19・20ページに3つの重点目標を載せたおかげで、来年度予算からある程度取れるであろうと担当のほうでは考えています。議員さんもこの前期計画に熱心に目を通していただいて、このなかから一般質問も多く出ております。限られたパイのなかで、また年々市税が減っている状況のなかで、福祉関係や子育て関係の事業が比較的増大している状況で、来年度予算は全国的にも厳しいなかで、富津市にも非常に厳しい、もう破綻するのではないかと思うような状況のなかでも、この次世代関連については特段の配慮をいただきまして、前進できるのではないかと、担当部局としては実現させていきたいと考えているわけでございます。ですから努力する過程のなかで皆様方の力を少しでもお借りしたい、この計画に載っているということが非常に重要になります。また、優先順位を考えてどれから始めるか、どこに力を入れるかというメリハリが非常に重要になっております。何もかもやればいいのですが、そうはいきません。障害者プランにつきましても、障害者自立支援法という法律が今騒がれていますが、そのために今は大きな分岐点であります。障害者にとっては生きるか死ぬかでございます。そういったなかで自己負担の割合ですとか市でも国でも模索しておりますけれども、市町村はやはり国に振り回されます。そういったなかで市民の方々がどう安心して暮らせるか、少しでも負担を減らしていきたいと、どう心安らかに暮らせるかということをして市でも一生懸命努力しております。市と市民との協働については、前回部会が盛り上がって何か行動に移せないかということで、行動に移す部会もございましたけれども、そういったなかで発展できなかったことは大変申し訳なく思っています。行政の力不足ということも大きいわけでございます。そういったなかで市民に力をつけていただくというなかで前期の「エンパワーメント」でございます。皆様方には大変建設的なご意見をいただきました。それを参考にしながら、今後の後期計画に向かっていきたいと思っております。

また、パブリックコメントでございますが、これも一つの機会でございますので申し上げますと、他の計画においてもほとんど意見が出ていないという結果でした。これは市民の方が何十人と見てパブリックコメントを出そうとしたんだけど、自分の意見がある程度載っていると、手を加える必要ないと、関係機関と市役所で協力し合えばいいんじゃないかと納得して方もいるでしょうし、まったくこれは歯がたたないと、自分の考え方とは全く違っていてもしょうがないと諦めている方もいるのですが、パブリックコメントは普段なかなか言うチャンスがない方への機会ということで行っています。もっと工夫しろと言われていますが、本計画は4つも5つも他の計画が出ているなかで良い方ではないかと思えます。インパクトが薄いという意見もありますが、いろいろ行政は多岐に渡っておりますので、広報ふっつの紙面においてもスペース奪い合いでございます、多くの福祉や学童保育の情報を載せています。こんなこともあるのだと、あの狭い広報のスペースを奪い合いでございますので、広報のお知らせもしないといけない、福祉のお知らせもしないといけない、園庭解放のお知らせもしないといけないとあります。富津市の保育所では150人も他の市から預かっている状態で、富津市の子どもさんは5人しか頼んでいないという状態でございますが、それは富津市の保育行政が素晴らしいんですね。幼稚園は別としまして、800人しか子どもを預かっていないのに、他市から150人も来ているのです。5人对150人なのであまりにも酷いのではないかとお叱りを私達も受けておりますけれども、しかしそれはご都合で富津市の保育園に預けたという表れでもございます。どこにいても安心して働いて子育てができるといった、保育行政が充実させることは非常に重要だと思っております。

色々ご意見をいただきましたが、基本的にそれらの形でこの計画を武器に、いかに行動に移すかという運用面においてお力をいただいて、一緒に歩んで目標達成をしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

<p>渡邊委員長</p>	<p>ありがとうございました。委員の皆さんからいただきました意見に対して部長の方からご意見をいただきました。私達委員としましても、この行動計画に携わった一人として、ぜひこの場に来て説明してやってくださいというような場を行政に持ち込んでいただきたいと思います。私達も市がこういった計画を作ったということを皆さんに知っていただく委員の一人であると思うんですね。ですから、皆さんにもこういう集まりがありますから事務局来て説明してくださいよ、福祉課が来て説明してくださいよ、といった機会を発掘していきたいと思えます。今この行動計画が出来たということは、土俵が出来た、種が蒔かれたという段階でございますので、部長からもありましたように、私達でこの行動計画を大きく成長させて、子ども達の健やかな成長に携わっていきたく思いますので、よろしくご協力をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは先ほど鈴木委員からありました、「お父さんへの一言」について何かいいアイデアがあれば頂戴したいのですが、いかがでしょうか。これは一律でなくてもいいわけですよ。この言葉を入れないと等はありますか。</p>
<p>事務局（健康福祉部長）</p>	<p>はい、その点については構わないと思います。カチンと来る方もいらっしゃるでしょうから、今回はこの形で出したわけですが、確かに言葉をなくしたことによって、柔らかみがなくなったような印象を受けるところもございますし、これはお父さんだけに言うことではないんだよと、皆さんへでも構わないと思えますし、ここでご意見をいただけたらと思います。</p> <p>また、先ほど言い忘れましたが、この次世代計画の本文も障害者計画と同じく全文にS Pコードを入れる予定でございます。このコードを入れると納品が大変遅くなります。お金がかかるというよりは時間がかかります。これには読み取るための印刷等が関係してきます。今後は、皆様方にも宣伝していただきたいのですが、身体障害者は1800人、知的障害者は250人、精神障害者は500人、手帳の持っている方はおられるわけです。手帳の持っていない方も含めると富津</p>

市で何千人とおられるわけです。障害があるのは当たり前なんです。そうしますと、どんな計画でもこのコードが入るのは当たり前だと思います。身体障害者のなかで目の不自由な方は150人しかおられません。そのなかで全く見えない方は何人いるかというのと、100人くらいになるかと思いますが、点字が読める方というのは10人～15人程度だと思われます。そうしますと、やはり音声が必要になります。どんな計画でもこういうコードが入って、手探りでこのコードを機械にかざせば、全ページが音声になってニュースキャスターのような綺麗な声でゆっくりと流れるわけです。どこにもそういった機械があって、どこの計画書でもそういうふうになっていくのが私は当たり前だと思うんですね。この障害者プランに続いて、次世代の後期計画は全ページそのようになっていく予定です。しかしまだ市の出している計画全部はならないわけですが、要は各部局においても準備等が色々ありましてこれが間に合わないところもございまして申し訳ございませんけれども、今回は第2弾として本計画に全部コードが入る予定になっております。そういった関係で、普通よりも1ヶ月程度長く印刷がかかってしまいますので、他の計画書に比べて皆様のお手元に届くのが遅くなる予定ですがご了承いただければと思います。それでは「お父さんに一言」について何か意見がございましたらお願いします。

渡邊委員長

それでは鈴木委員何かありますか。

鈴木委員

バランスの取れた方が「お父さんへ一言」って言ってくれたら意外とすっと入るのかなとも思ったりもして良く分からないんですけど、第一印象で言ってしまったかなとも思っています。

渡邊委員長

でもご提言いただかないと気づかない部分もございしますので、また何かアイデアがあったら教えてください。坂本委員どうぞ。

坂本委員

今「お父さんへの一言」ということで、自分も3人の子どもを持つお父さんとしてお話をさせていただけたらと思います。ここでは「お父さんへの一言」とストレートに書いていますが、私はこれでいいと思います。というのは実際に子育てのなかで、お父さんの役割はかなり

<p>稲村委員</p>	<p>低い、高くないといったところだと思います。小学校の集まりにしてもみんな参加するのがお母さんばかりということで、実際にPTAの役員になろうとしても、お父さんが参加してくれない、お母さんばかりというなかで、この表現でダイレクトに「お父さんへ一言」という方がぐっと来ますのでその方が良いかと思います。</p> <p>今坂本委員からの話もありましたけれども、私の方で考えていたのは一言をアドバイスに変えると少し柔らかい印象になるのかと思ったんですが、あまり柔らかくする必要はないのかなと、今の意見を聞いてそう思いました。</p>
<p>渡邊委員長 杉崎委員</p>	<p>杉崎委員はいかがですか。</p> <p>お父さんにもっと参加してほしいということで、今坂本委員がおっしゃったようにストレートにした方がぼけないといった面もあります。確かに学校のなかでも授業参観などを行うと仕事の面もあってほとんどがお母さんで、現実には男女平等といったところから考えると色々問題もあるんでしょうけれども、最近はお父さんも学校に足を運ぶようになりましたし、あえて意図的にお父さんを引っ張り出すために父親の授業参観や、更にはPTAのなかでお父さんだけでやる会、だけというサービスのような響きもありますが、学校によってそのような会もありますし、今富津市の課題として更に男女共同参画という意味でも、もっとお父さんに関わって欲しいといった願いをストレートに出しても良いのではないかと、誤解もあるかもしれませんが、そういった形で迷いもしましたが考えております。</p>
<p>渡邊委員長 飯田委員</p>	<p>保育園の立場からいかがですか。</p> <p>良いかと思います。よく学校行事を行いますと、子どもが小さいうちだからかもしれませんが、おじいさん、おばあさん、それから保護者と大勢見学というか参加してもらっていますので、あえて変える必要はないかとは思いますが。</p>
<p>渡邊委員長 長谷川委員</p>	<p>長谷川委員いかがですか。</p> <p>保育所の方もお父さんもだんだん参加するようになりまして、運動会等でもお父さん達の組体操ですとか積極的にやってもらっています</p>

渡邊委員長
鈴木委員

ので、意外とこういう書き方の方が見てはっとするのではないでしょう
うか。

ありがとうございました。はい、鈴木委員どうぞ。

色々とありがとうございます。CAPという団体はご存知ですか。
犯罪から子どもを守るというために、どのようにして守るかというこ
とでワークショップをしながら伝えていくという団体で、団体につい
ての説明を上手く出来ないんですが、そのなかで子どもが虐待とか、
知らない人に連れて行かれる等、子どもが犯罪に合わないために身に
つけなくてはいけないことを3つ挙げています。一つは声をだすこと、
二つ目は逃げる、三つ目はいやと言える、という3つなんです。これ
を私はワークショップに参加したときに、子ども達は大きな声を出す
といった姿があるかしら。昔だったら山などに登ったらやっほーとか
おーいという面もありましたけどそんな場面があるかしら。二つ目の
逃げるということですが、何かあったときに逃げるというのは頭では
分かってはいるんですが、とっさに体が動くというのは急に出来るこ
とではないです。でも昔の人はどうやって身につけたかと考えると、
鬼ごっこやかくれんぼのような、捕まりそうだから逃げる、見つかり
そうだから隠れるといったなかで身につけてきたんだと思います。そ
んな景色があるでしょうか。また、子どもがお家や外でいやと言って
表現したときに、大人がそれは駄目と押し付けてしまっていないか。
子どもがいやと自分の気持ちを表現したときに、そうだよ、そうい
った考えもあるよねと導いてくれる大人がいるのか。今の現実派どう
でしょうか。そうやって考えたときに、大きな声を出せと言っても公
園も奪われてしまった、それから鬼ごっこが出来る家の周りの環境も
ない、大人のモラルの問題で現代社会では子どもがいくら自分の気持
ちを言っても聞いてくれる大人がいなくなってしまったと、色々なこ
とを考えたら色々な問題が私達の周りであるんじゃないかと思いま
す。昔は出来ていたのにと今は昔に思いを馳せるのではなく、どう変
えていくかというところで、子どもを産んだだけで家庭だけで経済社
会が良くなるか社会が良くなるか、そんなことよりも、みんなで知恵

を出さないとやっていけないんだと、この次世代計画ではみんなの意見が網羅されて非常に良かったと思います。ですから、お父さんだけの問題だけではないということで、この会議で確認できたことが非常にありがたかったです。今回はこの形で載せて、5年後作られるときにこの項目が消えてまた新たな項目が出来ればそれで良いと思いました。ですからこれでお願いします。

渡邊委員長

ありがとうございました。皆さんから色々なご意見をいただきましたが、副委員長の前田委員はいかがですか。

前田委員

この表現について行政のプロが考えた結果でありまして、私は良い表現だと思っております。

渡邊委員長

はい、ありがとうございました。それでは「お父さんへ一言」については、今日が最後になりますので挙手をいただけますか。そのままが良いという方は挙手願います。

(過半数挙手)

小原委員はいかがですか。

小原委員

お父さんへ一言メッセージ、お父さんへ一言ポイント、要するに肯定にするような、お父さんへ一言というふざけてるんじゃないのというような気になってしまいますので、褒めて参加させるようにしたらと。お父さんはやっていて当たり前なのに、お父さんありがとうって褒めるようにして、ポイントという上手いこと聞いたというふうになるし、メッセージという聞かされたというふうになるのかなと思いました。ついでに言ってしまうとこれを配る場所ですが・・・。

渡邊委員長

小原委員、いまはこの表現の話になりますので、それについては後でお願いします。それでは小原委員からご提案をいただきましたが、好感を持っていただける表現にするということで、事務局に一任させていただいてよろしいですか。はい、それでは事務局の方でこの件についてはお願いします。それから先ほど長嶋委員からご提案がありました概要版ですが、回覧では皆さんが読まないのではないかと、3000部という部数の関係もあるでしょうし、皆さんに見ていただきたいというところで事務局いかがでしょうか。

<p>事務局（健康福祉部長）</p>	<p>おっしゃるとおりだと思います。それで家に配るものとして、2年に一度、「福祉・国保・介護ガイドブック」を全世帯で区長さんをお願いをして配っております。本当に大変でして、トラック一台分あるんですよね。このガイドブックを配る区長さんも持っていく職員も大変なんですけれども、全世帯に配っております。このようなことを行っているのは富津市くらいなんですけど、捨てられてもしょうがないということで配っております。これを見ながら電話をしてくる市民もいまして、そうすると市の職員よりも問い合わせをしてくる市民の方が良く知っているなということもあります。ご指摘のとおり、回覧で配ると3000部のうち2000部は消えてしまうわけで、回収できればいいのですが回収はしておりません。全世帯に配ればいいのですが、数も限られておりますので良いご意見があればと思います。</p> <p>保育所で配るだけでも800枚はなくなってしまうわけなんですけれども、色々工夫をしたいと思いますのでよろしくお願いします。</p>
<p>小原委員</p>	<p>それで工夫の先なんですけれども、私が考えたのは子育て支援センターとせっかくこのなかに書いてあるわけですから、そこに親がこぞって来るわけですよね。そしたらまさに現役世代の子育て中なわけで、悩んでいることがある人もない人も色々な考えの人が集うわけだから、そういった方々の机の上にぺらっとこのチラシがあれば持っていこうかなとか、また公民館で子どもの読み聞かせの場とか遊びのコーナー等の受付にあれば、必要な人は探してでも持って行くんですね。それが人情なんです。ですから、そういったところに置いていただいた方がよろしいのではないのでしょうか。</p>
<p>渡邊委員長</p>	<p>ありがとうございました。それでは委員さんの視点から、こういった場所に置いたらいいですよとか、こういったところを利用するので置いてくださいといった意見がありましたらお願いします。時間もおしておりますが、先ほど部長さんからもお話をいただきましたが、まだこの件についてお返事をもらっていないですとか、まだ何か聞きたいということがありましたらお願いします。それから、パブリックコメントの件ですが、アクセス数というのは何件か分かっていますか。</p>

事務局（健康福祉部長）	その点については私どもも質問したんですが、分からないそうなので、カウントは行っていないとのことです。
渡邊委員長	沢山の方が見ていただいているんでしょうけれども、提案としてあがってこなかったということもありますので、ご理解いただきたいと思います。それでは鈴木委員どうぞ。
鈴木委員	何度もすいません。先ほどもお話のなかで出しましたが、新しい次世代育成支援が進むということで推進員の募集が始まったと思います。次の会議を年に1回や2回ですとか部会制にして細やかな会議を開いていただきたい。
渡邊委員長	私達はこの3月に任期満了となるわけですが、事務局よりお願いします。次の行動計画の会というのは新しい委員さんになるわけですが、その点について事務局よりお願いします。
事務局（平野）	委員の任期ですが、要綱で定めているとおり3月で任期満了となります。新しい委員ですが、市民代表についてはこの2月の広報で3名の募集をかけておりますが、募集がなかったときに引き続きお願いすることもあるかと思えます。また団体の委員さんですが、各団体の推薦により、選出していただきたいと思えます。それについては、3月くらいにまた文書を出させていただきますのでご了承ください。また任期は5年間を予定しております。
渡邊委員長	そうすると先ほど出た部会制についてはどうなりますか。
事務局（健康福祉部長）	前期ではボランティアでもいいからということで部会を開いていただいたりしました。建前上出来ないような話でなっていますので、運用上で工夫できないか考えていきますのでよろしく願いいたします。
渡邊委員長	それでは次の委員会になりまして、その都度必要に応じて部会を設定して皆さんに参加していただいたり、事務局でも案を練っていただけたと思いますので、この件につきましてはそういったことでご了承いただきたいと思えます。他に何かございますか。それでは皆さんからのご意見がないようですので、事務局にマイクをお返ししたいと思います。よろしいでしょうか。

事務局(平野)	<p>長い間ご苦勞様でした。先ほどの加藤岡委員さんからご指摘がありました64ページの不妊治療の件は、文言を修正したいと思いますのでご了承願います。また会議録は郵送します。計画書も新しいものができましたら郵送いたしますのでよろしくお願いいたします。</p>
渡邊委員長	<p>時間の方もちょうど5分前ということで、今回この会議の開催にあたりまして大役を務めさせていただきましたけれども、上手に皆さんのご意見を聞き出すことが出来なかったかもしれません。本日は小原委員からご提案いただいて、皆さんから色々なご意見を頂戴することができました。至らない点多々あったかとは思いますが、おかげさまで後期計画もほぼ完成をみるところとなりましたので、これからは先ほども申しましたけれども、皆さんでこの計画をどんどん大きくしていきたいと思しますので、委員を離れましてもよろしくご協力いただけますようお願いいたします。本当にお世話になりました。ありがとうございました。</p>
事務局(鈴木)	<p>それでは委員の皆様におかれましては、長時間にわたり活発な討議をいただきまして、また長い方も短い方もいらっしゃるかとは思いますが、3月で任期満了ということで本当に本計画にご尽力いただきましてありがとうございました。これをもちまして富津市次世代育成支援行動計画推進会議を終わらせていただきます。ありがとうございました。</p>